

働くことと学ぶこと

—「働くことの意義」「学ぶことの大切さ」を考えよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

公益社団法人経済同友会(東京)、公益社団法人栃木県経済同友会、群馬経済同友会の会員として、中学校・高校からの要請により、出張授業をほぼ毎月のように行っています。今月は、その内容をご紹介します。ご参考まで。(林明夫)

Q1：働く・仕事をするとは、どのようなことですか。

A：(1)①仕事とは「もの(製品)」や「サービス」をつくり出し、提供することです。

②すべての仕事には「お客様」がいます。

③その「お客様」にとって「必要なもの」でないと、また、「問題解決」になっていないと、「お客様」は「もの」や「サービス」を買ってくださいません。

(2)仕事とは、「お客様に必要なものを提供すること」や「お客様の問題を解決すること」で、「お客様のお役に立つこと」です。

(3)世の中には同じように必要なことや、問題をもったお客様がたくさんいます。ですから、仕事とは「お客様に必要なものを提供すること」「お客様の困っている問題を解決すること」で、「世の中のお役に立つこと」でもあります。

(4)つまり、「仕事」とは「お客様のお役に立つこと、世の中のお役に立つこと」です。

Q2：仕事をしていて大変なことは何ですか。

A：(1)世の中の変化が激しく、ものやサービスが売れなくなることです。

*このコロナ禍(か)で、ものやサービスが前年と比べ大幅に売れなくなり困り果てているところがたくさんあります。

(2)①ではどうしたらよいか。

②仕事の仕方を変えるか、違う仕事に移ることが求められます。

③そのためにはどうしたらよいか。

(3)世の中がどのように変化してきたか、現在どのように変化しているか、これからどのように変化するかを勉強し続ける以外にありません。失敗を恐れず、その上で、ではどうしたらよいかを自分の力で考えてチャレンジし続けることです。

Q3：その他に、仕事をしていて大変なことは何ですか。

A：<競争相手との激しい「競争」の中で生き続けなければならないこと>です。

*ほとんどすべての仕事には競争相手がいます。

- (1) 「もの(製品、Product)やサービス」がお客様の問題解決になり、お客様のお役に立っているかどうか。
- (2) 「場所(Place)」がお客様にとって便利かどうか。
- (3) 「宣伝広告(Promotion)」がお客様との「コミュニケーション」になっているかどうか。
*この4つのP(Product、Price、Place、Promotion)とお客様との関係をよく考えることが、「競争」に負けないために大切です。

Q 4 : 仕事をするときには、どのような「しくみ」「組織」が必要ですか。

A : (1) 「経営者」

どのような仕事をするか、「方向性」「ゴール・目的」を決める人が必ず必要です。

(2) 「マネジャー」

決められた方向・目的に向けて「しくみ」「組織」を実際に動かす人、そこで仕事をすすべての人々に指示を出す人が必ず必要です。

(3) お客様のために毎日ものをつくり、サービスを提供する「社員」が必ず必要です。

(4) この他に、自分の組織を支援してくださる「ビジネスパートナー」も必ず必要です。

(5) これらを実際に行う「場所」も必要です。

Q 5 : 働くことの意味は何ですか。

A : (1) 「生活できるだけの収入を得る」ことです。生活を共にする家族が生活できる収入を得るために、働くのだと思います。ただし、世の中には、収入を目的にしない仕事、社会的活動・ボランティア活動もたくさんあります。

(2) 「お客様や社会のお役に立つために、人は働く、仕事をする」と考えます。仕事をしていて、お客様や社会のお役に立ててよかったと感じることもあり、仕事の喜びとなります。

(3) 仕事を通して、多くの仲間ができます。多くのことを学ぶことができます。仕事は、「自己実現」につながります。「よく生きること」につながります。

Q 6 : 現在の社会はどのような社会だと考えますか。そこで求められる能力は何だと考えますか。

A : (1) 「知識基盤社会(知識が基盤となった社会)」

→ 「道具(知識や情報、技術)をうまく組み合わせて用いる能力」

(2) 「グローバル化社会」

→ 「多様な集団で交流する能力」

(3) 「課題山積(かだいさんせき)社会」

→ 「自律的に活動する能力」

Q 7 : そのような「能力」を身に着けるには、どうしたらよいと考えますか。

A : (1) 「学び方を学ぶ」こと

→ 効果の上がる学習方法を自分なりに工夫して身に着けること

(2) 「読解力」を身に着けること

(3) 「自分で考える力」「自分自身を省みる力」「思慮深さ」を身に着けること

① 「辞書」…よくわからないことばがあったら気持ちが悪いと思い、辞書で調べる

② 「新聞」…新聞を毎日30分以上読む

- ③「読書」…自分の好きな本を毎日 1 時間以上読む。これぞという本は最後まで読む。
大切な本はノートを取りながら 6 回読む
- *「学校の図書館(中学校・高校・大学など)」と「公立図書館」を使いこなす。「図書館」を一生使いこなすことが「肝(きも)、ポイント」です。

Q 8 : 「中学校の勉強」は役に立ちますか。「受験勉強」は役に立ちますか。「高校の勉強」は世の中で役に立ちますか。

A : (1)「中学校の全教科の勉強」は、高校や大学で、また、社会ですべて役に立ちます。「教科以外のすべての教育活動」もすべて役に立ちます(当番や学級会活動、生徒会活動、部活動、学校行事などもすべて役に立ちます)。「社会人としての基礎力」を育てるものとして役に立ちます。

*「英検」「漢検」「数学検定」などの「検定試験」も役に立ちます。計画をしっかりと立て、コツコツ取り組みましょう。

(2)「高校への受験勉強」もすべて役に立ちます。

①「受験全教科」の 3 年間の学習内容を復習して「理解」し、「定着」させること(身に着けること)ができる絶好の機会だからです。

②「受験教科以外の教科」も、これから行われる「定期試験」の対策勉強を行い、中学 3 年間の総まとめをしてください。将来必ず役に立ちます。

③「高校の勉強」は、高校卒業後に進学する大学や短期大学、専門学校、専修学校ですべて役に立ちます。社会に出て仕事や社会的活動をするために、また、一生にわたってよく生きるためにすべて役に立ちます。

(3)①ですから、「中学校や高校、大学などの教科書や教材、辞書などは自分にとっての『宝物』」と考え、決して処分しない」こと

②いつでもサッと取り出せるところに置いておくこと

③一生涯手放さないで、折に触れて繰り返し学び直すことを強く希望します。

Q 9 : 中学校・高校時代に身に着けておいたほうがよいことは何ですか。

A : (1)「自覚をもって学ぶこと」

(2)「学習習慣」と「勉強の仕方」、特に「復習の仕方」と「メモの取り方」

(3)「5S(ゴエス)」

①「整理」(seiri) …いらぬものを処分する

②「清掃」(seisou) …きれいに掃除(そうじ)をする

③「整頓」(seiton) …ものは同じ場所に置く

④「清潔」(seiketsu) …①～③を保つ

⑤「躰」(shitsuke) …自分から進んで行く

(4)別の意味の「躰(しつけ)」も大事

①「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」

②「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」

③「元気なあいさつ-あいさつはこちらからする」

(5)よいところを探して、高く評価する(ほめる)こと

- ①家族のよいところ
- ②クラスや学校のよいところ
- ③地域、足利市、栃木県、日本のよいところ
- ④自分のよいところ
- ⑤よいところはどんどん伸ばす

Q10：自己紹介として、好きなことばを紹介してください。

A：たくさんあります

- (1)「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」
- (2)「練習で泣いて、試合で笑え」
- (3)「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい努力せよ)」
- (4)「独立自尊(自分自身を独立させ、自分自身を尊ぶ)」
- (5)「注意一秒、ケガ一生」
- (6)「会った人は、皆、友達」
- (7)「目には遠いが心は近い」
- (8)「よいことをして、忘れる」
- (9)「持続する志」
- (10)「歴史における個人の役割」
- (11)「教育ある人とは、一生、勉強し続ける人」
- (12)「離見の見(りけんのけん)」
*舞台で踊っている自分を、離れた観客席から見る
- (13)「本当の月を見たことがあるか、本当の自分を見たことがあるか」
- (14)「健康第一、心の健康、身体の健康」
- (15)「一生勉強、一生青春」